

# モイモイのモイ

(一步一步のたった一步)



## アンコールの聖山、 クーレン (2)

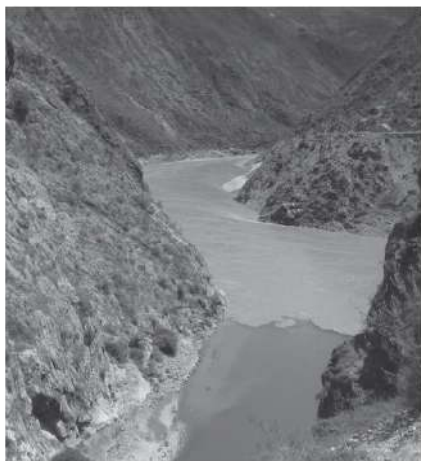
近代史では内戦の激戦地として知られた。

2007年の初め、チエが持ってきた写真を奥さんにも見せようと、彼女の職場『教育青年スポーツ局』へ出掛けた。その名前はフランスの植民地だった頃のまんまだ。モリス・エルゾークが見つけた、人生の他のアンナブルナ(注1)、それが『教育青年……』だ。(注1)、それが『教育青年……』だ。エルゾークはアンナブルナで指を失ったが、その指導者になった。僕は奥さんにチエの写真を見せ、彼女の識字率調査行とバック

## 目指せ、 アンコールクライマー誕生!!



梅里雪山対岸に作られた1991年日中合同登山隊の遭難慰霊碑。日本人の名前が削られてはいたがジロさんがどれかはどうにか分かった。



梅里雪山付近の支流がメコン川本流に合流する地点。支流は通常だが、本流のメコンはすでにカンボジアを流れる汚い泥の色と同じで、“あれってずっと上からそうなんだ”って素朴に驚いてしまった。

のプランを立てた。その頃はまだ山麓の広大なジャングルは名うての地雷原だった。トレイルをはずさないようにして平地を20分、さらに山の斜面を登ること20分、くだんの岩塔に出た。高さ8m。ホリゾンタル(水平じわ)の発達した壁は上半分が薄く被っていた。雨期に入った6月、僕は西面の蔭に隠れたクラックを登った。東側の船先に出てジャンピングでアンカーを打ち込む。すぐに高所障害みたい息苦しくなりめまいがしてきた。何年も前だが先輩がALS(筋萎縮側索硬化症)で亡くなった。その前夜、僕はヨセミテから戻ったばかりだった。僕は赤く腫んだ前腕のテーピング痕を

見ながら身も心もボロボロになったと泣き言を垂れた。先輩はアンタツチャブル(映画です)のショーン・コネリーそっくりに、あきらめるなと一言。それが最後だった。僕は先輩の遺言を再びタフな密林の岩場で聞いていた。手足を這い上がる獐猛な赤蟻と、脱水の脅威に怯えながら、その一言を呪のように呟き、僕はボルトを埋めた。ついでに言えば、その一言は、今も、僕を励まし続けている。そして僕はその壁を登った。しかし、僕も奥さんも脱水してふらふらになった。その夜、脳裏をなげかヒューイ・ルイスの「バック・イン・タイム」がエンドレスで駆け巡り、夜明け近くまで僕は全身が攀って苦しんだ。

7月になると雨季は本格化し、そしてある日、知人から雲南省(中国)に招待された。クーレン山の開拓をひとまず置き、僕は巡礼のような気分でもコン川源頭へ向かった。梅里雪山対岸の慰霊碑に見つけたジロさん(井上治郎氏注2)の名に手を合わせた。そして11月、カンボジアに来て2回目の乾季を迎え、その後の展開にもっとも重要な人物と出会うことになった。(続く)

注1: モリス・エルゾーク『処女峰アンナブルナ』の最終に記されている「人間の生活には、他のアンタブルナがある……」。

注2: 1976年のGEN(ネパール氷河学術調査遠征隊)で、僕は彼の指導の下、多くの行動を共にした。ひとつ上の兄貴分だった。AACK(京大土山岳会)のメンバーで、1991年梅里雪山日中合同学術登山隊に参加したが雪崩で亡くなった。